

** 2022年7月改訂(第10版)

* 2019年9月改訂

日本標準商品分類番号
871242

貯 法：遮光、凍結を避け、8℃以下で保存
使用期限：外箱、容器に表示

劇薬 処方箋医薬品^{注)}

鎮静剤

ハイスコ[®]皮下注0.5mg HYSCO[®] Subcutaneous injection 0.5mg

(スコポラミン臭化水素酸塩水和物注)

承認番号	22000AMX00663000
薬価記載	2008年6月
販売開始	1960年11月
再評価結果	1983年4月

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】^{*}

- 1. 閉塞隅角緑内障の患者
[抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]
- 2. 前立腺肥大による排尿障害のある患者
[排尿障害を助長するおそれがある。]
- 3. 重篤な心疾患のある患者
[心臓の運動を促進するため、症状を悪化させるおそれがある。]
- 4. 麻痺性イレウスのある患者
[腸管の弛緩を助長するおそれがある。]
- 5. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 6. 喘息の患者
[気管支分泌量が減少し、粘着性が増し、分泌物の排出が困難になるおそれがある。]
- 7. 肝炎の患者
[本剤は肝臓で代謝されるため、肝機能障害のある患者では代謝されにくくなり、副作用がおこりやすくなるおそれがある。]

【組成・性状】

成分・含量 (1管1mL中)	日局 スコポラミン臭化水素酸塩水和物 0.5mg
剤形	注射剤
色調	無色澄明
pH	5.5~6.5
浸透圧比	約0.0(生理食塩液に対する比)
溶血性	(+)

【効能・効果】

麻酔の前投薬、特異性及び脳炎後パーキンソニズム

【用法・用量】

スコポラミン臭化水素酸塩水和物として、通常成人1回0.25~0.5mgを皮下注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】^{*}

- 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
 - (1)前立腺肥大のある患者
[排尿障害をおこすおそれがある。]
 - (2)うっ血性心不全のある患者
[心臓の運動を促進するため、症状を悪化させるおそれがある。]
 - (3)不整脈のある患者
[頻脈や不整脈がおこるおそれがある。]
 - (4)潰瘍性大腸炎の患者
[中毒性巨大結腸があらわれることがある。]
 - (5)甲状腺機能亢進症の患者
[頻脈、体温上昇、発汗などの交感神経興奮様症状が増強するおそれがある。]

(6)高温環境にある患者

[発汗抑制作用により体温が上昇するおそれがある。]

(7)てんかんの患者

[感受性が増大するおそれがある。]

* (8)開放隅角緑内障の患者

[抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]

2. 重要な基本的注意

眼の調節障害、眠気、めまい等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること。

3. 相互作用

【併用注意】(併用に注意すること)

薬剤名等	機序・危険因子
バルビツール酸誘導体	併用により、相加的に作用を増強する。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

以下の副作用は、経口剤使用例及び頻度が算出できない副作用報告を含む。

その他の副作用

	頻度不明
眼	霧視、調節障害
消化器	口渇、悪心・嘔吐
精神神経系	眠気、頭痛、めまい
循環器	心悸亢進
過敏症 ^{注)}	発疹
その他	脱力感、倦怠感、顔面潮紅

注)症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない。)

8. 過量投与

呼吸中枢を抑制する。

治療法：呼吸管理(酸素吸入・人工呼吸等)を行い、興奮症状が強い場合はジアゼパムやフェノバルビタールを投与する。フェノチアジン類は抗ムスカリン作用により中毒症状を悪化させるため使用してはならない。

解毒剤：コリンエステラーゼ阻害剤(ネオスチグミン等)

9. 適用上の注意

アンプルカット時：本品はワンポイントカットアンプルを使用しているが、アンプルの首部をエタノール綿等で清拭し、カットすること。

【薬効薬理】

健康成人にスコポラミン臭化水素酸塩水和物0.15～0.8mgを皮下注射した結果、軽度の徐脈、唾液分泌の抑制、光に対する脳波覚醒反応の抑制及び自発的な会話や動作の減少がみられた¹⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】**

一般名：スコポラミン臭化水素酸塩水和物

(Scopolamine Hydrobromide Hydrate) [JAN]

** 化学名：(1R,2R,4S,5S,7s)-9-Methyl-3-oxa-9-azatricyclo [3.3.1.0^{2,4}]non-7-yl(2S)-3-hydroxy-2-phenylpropanoate monohydrobromide trihydrate

分子式：C₁₇H₂₁NO₄・HBr・3H₂O

分子量：438.31

融点：195～199℃

(乾燥後、あらかじめ浴液を180℃に加熱しておく)

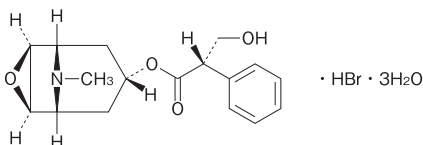
旋光度：[α]_D²⁰：-24.0～-26.0°

(乾燥後、0.5g、水、10mL、100mm)

性状：本品は無色若しくは白色の結晶又は白色の粒、若しくは粉末で、においはない。

本品は水に溶けやすく、エタノール(95)又は酢酸(100)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

** 化学構造式：



【包装】

ハイスコ皮下注0.5mg

1mL(0.5mg) 10管

【主要文献】

1)Ostfeld, M., et al., *J. Pharm. Exp. Ther.*, **137**, 133(1962).

【文献請求先】

杏林製薬株式会社 くすり情報センター

〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台4-6

電話 0120-409341

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日を除く)

杏林製薬株式会社

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地